

平成二十九年(二〇一七) 中学校入学試験問題 (A日程) 国語 不二聖心女子学院

(解答はすべて解答用紙に記入すること)

受験番号

一、次の物語を読んで、あとの問いに答えなさい。

てんのまちやなぎどおり 四ちようめ十一ばんち
しらはま なみこさま

小さな町の小さな郵便局で、その日もこんな手紙が見つかりました。

①「これで、六通になるなあ」

局長さんは、こまつたように、局員さんに話しかけました。この天の町ゆきの手紙がくるようになって、もう二か月もすぎたでしょうか。

「こんなでたらめな住所をかくなんて、まったくこまつたものだ。うん。こりゃあ、②の字だな」とがったえんぴつを、よほどおさえてかいたのか、字のところどころに、あながあいています。ふうとうのうらには、いつも、ただ『まさお』とかいてあるだけなのです。

「おや」

と、わかい局員さんが、ちよつとまばたきをして、局長さんの③もとをのぞきこむようにしました。

「こんどのは、住所がかいてありますよ」

「どれどれ」

局長さんは、あわてて老眼のめがねをかけなおしました。

つくしちよう 一の三十五ばんち

しらはま まさお

「これは、わたしが局にくるとき、とおる道すじだぞ。ふうむ……」

と、局長さんは、ちよつと考えてからいいました。

「じゃあ、こうするか。帰るとちゆうで、わたしがこの手紙をかえしておこう。はやく、やめさせなきゃならんしな」^④
「おねがいます」わかい局員さんは、ひと仕事がここでおわつたので、ほつとして、⑤をぺこりとさげました。

六時をすぎると、局長さんは、黒い自転車にのって郵便局をでました。自転車の前についているかこのなかでは、茶色のふくろが、かさかさゆれていました。あの六通の手紙がいてあるふくろです。

(いったい、どんな子だろうな)

アスファルトの道を走り、小さい橋をわたると、そこらが、つくし町の一丁目です。

(ははあ、ここが十二番地か。すると、もつとむこうだな)

と、局長さんはうなずきました。それから、自転車にのらずに、歩きながら表札をのぞいていきました。そして、とうとう、青い屋根の小さな家の前に立ちどまりました。

《一の三十五 白浜大作》

という表札を見つけたのです。

自転車をとめて、ふくろを手にもつと、局長さんは、げんかんのベルをおしました。でも、だれもでてきません。もういちど、ベルをおしました。強く、長く。……でも、だれもでてきません。

「やれやれ、るすか」

局長さんは、がっかりしてつぶやきました。

「そう、るすだよ」

うしろから、「ア」【子どもの声がしました。

ふりむくと、小さな五つぐらいの男の子が、いたずら小僧こぞうのように、鼻のてっぺんに白い砂をつけたまま、くつくつとわらっていました。

「じゃあ、またこよう」

局長さんがそういうと、男の子は、りすのようにすばしこく局長さんのわきの下をすりぬけると、いきなりドアのまるい取っ手をひっぱりました。

ドアは、ぱたんとあきました。男の子は、「イ」【家のなかにとびこみ、こんどは、なかから局長さんを見あげて、また、くつくつとわらうと、

「ほらね。もう、⑥ じゃないよ」

と、とくいそうにいました。

「なあんだ。きみは、このうちの子だったのか」

局長さんは、わらいだしました。

「じゃあ、きみだろ。きみが、まさおくんだろ？」

「あれっ、知ってるの？」

と、男の子は、⑦をまるくしました。⑧局長さんは、ちよっととくいそうに、あごをあげてみせました。そして、

「白浜なみこさんって」

と、いいかけると、男の子がそのことばをひきとりました。

「おかあちゃんに、ご用なの？ じゃあ、だめ。もうだめ」

「いや、それが」

と、局長さんがいいかけると、「ウ」【男の子がことばをひきとりました。

「おかあちゃん、いま、ここじゃないもん。このまえ、天の町にひっこしたばかりだよ」

「へえ。ひっこしたって！」

「ん。そう。こんどの住所はね。やなぎ通り四丁目十一番地だよ」

男の子は、すらすらっといいました。「エ」【すらすらといったので、局長さんは、指さしていいました。

「その番地、その番地。その番地は、だれにおそわったの？」

「おとうちゃんだよ」

と、男の子は、とくいそうにこたえました。

「ぼくのおとうちゃんって、なんだって、知ってるんだから」

⑨局長さんのむねが、そのとき、ずおんとなりました。ふいに思いだしたのです。二か月ほどまえの雨の日、このあたりに、白と黒の花輪がかざってあったことを。

（あれは、この子のうちだったんだ）

かた手にもっているふくろをにぎりしめた局長さんに、男の子は、楽しい歌のつづきのように、いいました。

「おかあちゃんちはね、川のそばなんだ。そいでね、屋根が青いんだよ。光ってるんだよ」

局長さんは、⑩あとすさりしました。

「そうかい。川のそばなんだね」

⑪ふくろをうしろにまわしながら、いいました。

「屋根は青いんだね。光ってるんだね。わかったよ。じゃあね、じゃあね」

空は、もうむらさき色。あたりは、うす暗くなっています。

表畑のあいだの細い道を、局長さんは、ハンドルをおしながら歩いていました。男の子の前では、「じゃあね、じゃあね」と、自転車にのって走ったものの、局長さんは、じきおりました。どうしてか、ゆっくり歩きたくなりま

した。⑫

（あの子にわるかったなあ。まるで、にげるみたいにしてきちまって。たくさん、いいたいことがあったのに、なにかひ

とつことばをいったら、みんなくずれてきそうな、⑬あやふやな気もちになっちまって……）

見あげると、暗い空に、いく百、いく千の星が、ちかちかともえはじめています。

(あの子のおとうさんは、きつと、おかあさんが天の町にひっこしていったと、おしえたんだろう、番地は？ ときかれ
て、あんなふうにくたえたんだろう……。あの子は、だから、この手紙がどいていると思っっているんだ)
ため息がでました。そして、つぶやきました。

「あああ、天の町、か」

そのとき、すきとおった風が、どうとふいてきて、局長さんの声を、砂のようにあたりにまきちらしました。

「あああ、天の町、か」

「あああ、天の町、か」

「あああ……」

「あああ……」

そのとき、局長さんは、はつと、息をのみました。^④

目の前に、すきとおった、こはく色の道が、すうつとうかびでできたのです。^(注)

とおくとおく、星の空までななめにつづいた細い道が――。

その両側には、やなぎの並木がならんでいるのがわかりました。細いその葉のあいだから、緑や黄色やむらさきの光の
つぶが、ぺかぺかとまたたきだしました。

そのまたたきがはげしくなるにつれて、たくさん家の屋根や、たてよこにつながっているいくつもの道が、うかびで
てきました。
〈中略〉

むこうに橋が見えてきました。小さい川です。橋をわたると、すぐに屋根が青く、ぼおつと光っている家が見えてきま
した。

(あの家だな)

局長さんはうなずいて、自転車をおりました。

表札をみると、そうです。やつぱり、《白浜なみこ》とかいてあります。

^⑤局長さんは、ふふつとわらいました。表札の下に、まるで、あの子の手紙をまっているように、郵便うけがついていた
ので。

帰り道は、まるで、空をとぶようでした。

「よかったなあ」

手紙を一通ずつ郵便うけにいったときの、ほとつ、ほとつ、という音が、局長さんの耳のなかでかさなって、しずかな

音楽のようになりつづけています。

^⑥「ああ、よかったなあ」

ペダルが、うんとかるくなつた気がします。

天の町は、いつのまにかきえていました。

暗い麦畑のなかの細い一本道です。

「よかったなあ、よかったなあ」

同じことばかり何回もつぶやきながら、局長さんは、自転車をこぎつづけました。きいきいと、きしんだ音をたてる
古い自転車を。

あまんきみこ「天の町やなぎ通り」(問題文の一部に表記の変更、省略あり)

(注) 「こはく色」……茶色がかった黄色や金色

問一、――線①について、「局長さん」は、どのようなことにこまったのか、わかりやすく説明しなさい。

問二、②・⑥にふさわしい言葉を本文中から、②は三字、⑥は二字でぬき出して答えなさい。

問三、③・⑤・⑦にふさわしい、体を表す言葉を、それぞれ漢字一字で答えなさい。

問四、――線④について、なぜ「やめさせなきゃならん」と思ったのか、考えられる理由を説明しなさい。

問五、——線A「とうとう」・B「きつと」・C「何回も」はどこに係るか。次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A とうとう、青い屋根のアイ小さな家の前に 立ちどまりました。

B きつと、おかあさんが 天の町に ひっこしていったと、おしえたんだらう、

C 同じことばかり 何回も つぶやきながら、局長さんは、自転車エを こぎつづけました。

問六、【ア】 【イ】 【ウ】 【エ】 【オ】 にふさわしい言葉を、次の中から選び、記号で答えなさい。同じ記号を二度用いないこと。

「1 あんまり 2 ふいに 3 また 4 するりと 5 ときどき」

問七、——線⑧について、なぜ「とくいそうに」したのか、わかりやすく説明しなさい。

問八、——線⑨について、なぜ「ずおんとな」ったのか、くわしく説明しなさい。

問九、——線⑩「あとずさり」・⑬「あやふやな」・⑭「息をの(む)」の意味をそれぞれ答えなさい。

問十、——線⑪について

(i) 「局長さん」は、何のために「ふくろをうしろにまわし」たと考えられるか、わかりやすく説明しなさい。

(ii) このときの「局長さん」の気持ちとして、もっとも適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 男の子の話に真剣に耳をかたむけようと思った。

イ 男の子を傷つけてはいけないと思った。

ウ 住所を知らずにいたことを笑われると思った。

エ 男の子をなんとかして励まそうと思った。

問十一、——線⑫・⑬に共通する表現上の工夫を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 音や声、状態や身ぶりを言葉に表したもの(擬音語・擬態語)

イ 表現の順序を逆にして、強調する方法(倒置法)

ウ 同じような語句を何度もくりかえす方法(反復法)

エ あるものをほかの何かにたとえる方法(比喩)

問十二、——線⑭について、このときの「局長さん」の気持ちを、くわしく説明しなさい。

問十三、「手紙」についてのあなたの思い出を三百字以内で書きなさい。(別紙原稿用紙に書くこと)

二、次の~~~~線①~⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

日本ではウサギの餅つきと表現される、月の表面のモヨウは、月の地形のでこぼこによってできています。黒つぶく見えるところ(ウサギの部分)は、「月の海」と呼ばれています。②ジッサイには地球の海のように水をたたえてはいません。もともとは、約四十オク年ほど前に、周りの小さな惑星が月に落下してきたときにできた巨大なクレーターが、月の海を形成しているのです。表にはこのように月の海が広がっているのが観察できますが、裏には海はほとんどありません。海の面積のワリアイは、表には三十パーセントもあるのに対して、裏はたったの二パーセント。ですから全体的に白っぽく見えるのです。そして、表よりもコウテイサの激しいでこぼこがたくさんあります。もし地球からボウエ^⑥ンキョウで裏側が見えるとしたら、白い顔にぶつぶつがたくさんできているような表情に見えると思います。

さて、この月は、どのようにして生まれ、地球の周りをマワるようになったのでしょうか。これには諸説あります。

今一番の説は、「ジャイアント・インパクト説」というものです。これは、大昔に地球に他の天体が衝突して、そのときに飛びちった地球のかげらが、地球の軌道上で集まって月になったという説です。地球にぶつかってきた天体というのは、地球の約半分くらいの直径の星だったと言われています。これが正解だとすれば、現在わかっている月の性質が、なぜそういう性質なのかという説明ができるので、ユウリョクシされているのです。この説は一九四〇年代から言われ始めましたが、広く受け入れられるようになったのは七〇年代イコウです。

竹内 薫「『月』を体感してみよう！」(問題文の一部に表記の変更、省略あり)

受験番号

—

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九			問十	問十一	問十二	問十三
	②	③		A	ア			⑩	⑬	⑭	i	ii	•	別紙原稿用紙に書くこと
				B	イ									
				C	ウ									
	⑥	⑦			エ									

二

①	⑥
モ ヨ ウ	ボ ウ エ ン キ ョ ウ
②	⑦
ジ ッ サ イ	マ ワ る
③	⑧
オ ク	チ つ た
④	⑨
ワ リ ア イ	ユ ウ リ ョ ク シ
⑤	⑩
コ ウ テ イ サ	イ コ ウ

